

芸術科（書道Ⅲ）学習指導案

府立〇〇高等学校 〇〇 〇〇

1 日 時 平成 26 年〇月〇日（〇） 5・6 限

2 場 所 府立〇〇高等学校 書道教室

3 対 象 学 年 第 3 学年 芸術科「書道Ⅲ」 選択生 3 名

4 単 元 名 「漢字仮名交じりの書（共同作品：校歌を書こう）」（6 時間）

5 教 科 書 「書Ⅲ」（教育図書）

6 単 元 目 標

- （1）自校の校歌に愛着を持ち、その歌詞を個性的に表現する。また書の伝統と文化を尊重し、自己の表現に意欲を持ちながら、他者の作品を鑑賞することを通して、創造的活動に主体的に取り組む。
(書への関心・意欲・態度)
- （2）感性を働かせながら、個性を生かして自らの意図に基づいて表現し、他者の作品の良さを取り入れた表現の構想を工夫する。
(書表現の構想と工夫)
- （3）個性豊かに創造的な書表現をするために、効果的な技能を身に付け、表現する。
(創造的な書表現の技能)
- （4）書の美の多様性を理解し、作品の特徴を幅広く把握する。他者との共同作品を制作する過程で文字や文字群と余白の美しさについて個性豊かに味わおうとする。
(鑑賞の能力)

7 教 材 観

これまで生徒たちは、自分自身の表現を求めて、主に個人で作品を制作してきた。今回の共同作品は、各々の個性を豊かに生かしながらも、他者の書と調和のとれた作品づくりをめざすことで、効果的な表現方法について工夫を凝らすことが出来ると考える。

また、他者との書表現の交流を通して、自身の書表現の幅を広げることにも繋がる教材である。

書く題材である校歌は本校でメロディーチャイムとして使用されており、普段から慣れ親しんでいるため、思い入れを持って取り組むことが出来る。

8 生 徒 観

「略」

9 指 導 観

これまでの学習では、大きめの紙の方が個性的に表現することができていたので、使う紙のサイズは全紙とする。各々の個性を生かした書を丁寧に表現させながらも、他者の書と調和のとれた作品を作り上げさせたい。その際、用具用材にも意識を持たせながら、効果的な表現方法について考えさせたい。

様々な試みの中で、他者と協力しながら、作品を仕上げていくことを通して、協調性も学ばせたい。また、完成に向けて、試行錯誤を繰り返し工夫させていくことで達成感を持たせたい。

10 単元の評価基準

	書への関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技能	鑑賞の能力
単元 の 評価 規 準	〔表現〕 書の伝統と文化に関心を持ち、主体的で個性的な表現の創造的活動に取り組み、漢字仮名交じり書の創作活動の喜びを味わおうとしている。 〔鑑賞〕 漢字仮名交じりの書の書表現文化を尊重し、書のよさや美しさを感じ取り、主体的に鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。	感性を働かせながら、自らの意図に基づいて主体的に構想し、個性的・創造的に表現を工夫している。	個性豊かに創造的な漢字仮名交じりの書の表現をするために、効果的な表現の技能を身に付け表している。	書の美の多様性、文字及び書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを個性豊かに味わっている。
学 習 活 動 に 即 した 評 価 規 準	〔表現・関①〕 漢字と仮名の文字や字形に関心を持ち、自らの構想に基づいて意欲的、主体的に活動を行おうとしている。 〔鑑賞・関②〕 日常生活の書の伝統と文化を尊重し、自他との関係の中で、そのよさや美しさを感じ取ろうとしている。	〔構成①〕 字形や文字の大きさなどが全体の構成に関わることを理解し、個性的・創造的に表現を工夫している。	〔技能①〕 文字や文字群と余白との関係を理解し、全体の構成を考えた効果的な表現の技能を身に付け個性的に表している。	〔鑑賞①〕 鑑賞と表現は相互に関連していることを理解し、書のよさや美しさを深く感じ取っている。

11 指導と評価の計画（全6時間）

時間	学習のねらい	学習活動	学習活動に即した評価規準				評価方法、留意点等
			関	構	技	鑑	
1 ・ 2	漢字と仮名を用いた共同作品の創作過程を知るとともに、自他の書の調和を考えながら作品を構想する。	- 漢字と仮名を用いた共同作品の創作過程を理解し、漢字と仮名の字形や文字を尊重しながら、意欲的・主体的に学習活動を行う。 - 校歌のイメージを大切にしながら、他者と自己の書の調和を考えて、全体の構成を工夫する。	関①	構①		鑑①	- 漢字と仮名の文字や字形に関心を持ち、自らの構想に基づいて意欲的、主体的に活動を行おうとしている。 (観察) - 字形や文字の大きさなどが全体の構成に関わることを理解し、自他の書の調和を考えながら、個性的・創造的に表現を工夫している。 (作品) (プリント) 評価の場面Ⅰ - 鑑賞と表現は相互に関連していることを理解し、書のよさや美しさを深く感じ取っている。 (観察)
3 ・ 4 (本時)	自他の書の調和を考えた構想を基に、その美しさを尊重し、個性豊かに表現する。	- 自他の書を尊重しながら、漢字仮名交じりの書のよさや美しさを感じ取る。 - 構想に基づいて、字形や文字の大きさや、文字群・余白との関係を理解しながら、個性豊かに表現する。	関②		技①		- 自他の書を尊重し、そのよさや美しさを感じ取ろうとしている。 (観察) - 文字や文字群と余白との関係を理解し、全体の構成を考えた効果的な表現の技能を身に付け個性的に表している。 (観察) (作品) 評価の場面Ⅱ
5 ・ 6	自他の書の調和を考えた構想を基に、互いに相互評価しながら、個性豊かに表現する。	- 構想に基づいて、字形や文字の大きさや、文字群・余白との関係を理解しながら、個性豊かに表現する。 - 相互評価する中で、互いの作品を尊重しながら、調和のとれた全体の構成を表現する。			技①	鑑①	- 文字や文字群と余白との関係を理解し、全体の構成を考えた効果的な表現の技能を身に付け個性的に表している。 (観察) (作品) - 鑑賞と表現は相互に関連していることを理解し、篆刻のよさや美しさを深く感じ取り、作品に生かそうとしている。 (観察) (プリント)

12 観点別評価の進め方 評価の場面Ⅱ について

学習活動に即した評価規準		評価基準	具体的な事項 (評価の総括につながる事項)
自他の書を調和させた共同作品	【創造的な書表現の技能】 文字や文字群と余白との関係を理解し、全体の構成を考えた効果的な表現の技能を身に付け個性的に表している。	A 文字や文字群と余白との関係を理解した上で、全体の構成を考えた表現の技能を身に付け、個性的に表している。 B 文字や文字群と余白との関係は理解しているが、全体の構成を考えた表現の技能が不足し、個性的な表現が難しい。 C 文字や文字群と余白との関係を理解出来ず、全体の構成を考えた表現の技能も未熟である。	・ 書きたいイメージを明確にしているか。 ・ 書きたいイメージを表現するための工夫が考えられているか。 ・ 書きたいイメージを表現できているか。 ・ 自他の書の良い点を見つけ、それを作品に生かしているか。 ・ 調和のとれた作品づくりのために、全体の構成、特に文字や文字群と余白との関係を考えながら作品づくりが出来ているか。 ・ 字形や文字の大きさに配慮できているか。 ・ 行の傾き、行間を工夫できているか。 ・ 行頭、行末の変化が全体の構成に効果的かどうかを理解し、意図を持って表現できているか。

13 本時の学習（3・4時）

○本時の目標

- ・ 自他の書を尊重し、そのよさや美しさを感じ取る。
- ・ 全体の構成、特に文字や文字群と余白との関係を考慮しながら個性的に表現する。

○本時の評価規準

関② 日常生活の書の伝統と文化を尊重し、そのよさや美しさを感じ取ろうとしている。

技① 文字や文字群と余白との関係を理解し、全体の構成を考えた効果的な表現の技能を身に付け個性的に表している。

○本時で扱う教材

教科書：「書Ⅲ」（教育図書）

制作プリント等

○学習指導の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
導入 (十分)	- 作業準備 - 前時までの振り返りをする。 - 学習内容を知る。	- 出欠確認 - 前時までの学習内容を、プリント（ファイル）で確認する。 - 本時の学習内容を知る。	(観察)
展開 (七十分)	- 学習目標を知る。 (5分) - 個人目標をプリントに記入する。 (5分) - 自分の担当箇所を確認し、まずは個人で練習する。 (20分) 【休憩 5分】 - 自他の書の調和を考えながら、個性的な表現で共同作品を作る。 (35分)	- 学習目標を考慮した個人目標を考えるように指示する。 ・書きたいイメージ ・イメージを表現するための工夫 - 校歌のイメージを思い出させる。 - 書きたいイメージと、自分の個性を尊重して書くよう書道用品にも留意しながら指導する。 ・A…行書が得意なので、筆勢や抑揚にとんだ線質を生かすよう指導する。 ・B…行草の大字が得意なので、力強さを意識させるよう指導する。 ・C…細い線を丁寧に使うことが得意なので、その点を生かすように指導する。 - 適宜、机間指導する。 - 自他の書を調和させるためには、文字や文字群と余白との関係が大切であることを意識させる。 1枚作品を書くごとに、作品の相互批評を行わせ、改善点を全員で考えさせる。その際、自他の書で活かしたい点について着目するよう指示する。	【書への関心・意欲・態度】 - 自他の書を尊重しながら、漢字仮名交じりの書のよさや美しさを感じ取っている。 (観察) 【書表現の構想と工夫】 - 文字や文字群と余白との関係を理解し、全体の構成を考えた効果的な表現の技能を身に付け個性的に表している。 (作品)
まとめ (十分)	- 本時の課題を提出する。 - 自己評価、感想の記入をする。 - 後片付け - 次時の予告を聞く。	- 作品を提出させる。後片付けをきちんとさせる。 - 次回予告をする。	構想に基づいて、字形や文字の大きさや、文字群・余白との関係を理解しながら、個性豊かに表現する。 (制作プリント) (作品)

14 具体的な指導の改善内容

評価基準（3・4 限目 全体の構成 評価規準 技①に基づく）

A【十分満足できる状況】⇒表現の意図を生かしながら、文字や文字群と余白との関係を理解し、全体の構成を考えた表現の技能を身に付け、個性的に表している。

⇒次の時間（5・6 限目）でどのように対応（指導）するか？

…自他の作品を尊重させながら、どの点が良かったか解説し、より完成度の高い作品を作るようにする。

B【おおむね満足できる状況】⇒表現の意図を生かしながら、文字や文字群と余白との関係を理解しているが、全体の構成を考えた表現の技能が不足している。

⇒次の時間（5・6 限目）でどのように対応（指導）するか？

…全体の構成について書きたいイメージをより一層具体化させながら、調和のとれた作品を作るようにする。

C【努力を要する状況】⇒表現の意図が理解出来ず、文字や文字群と余白との関係に着目して、全体の構成を考える工夫が不足している。

⇒次の時間（5・6 限目）でどのように対応（指導）するか？

…再度表現の意図を確認し、それに即した表現には文字や文字群と余白の関係が大切な要素である事を具体的な示範作品を例示して、理解と表現を深めさせる。